

鳥羽市全員協議会会議録

令和4年3月10日

○出席議員（14名）

1番	南川 則之	2番	濱口 正久
3番	瀬崎 伸一	4番	片岡 直博
5番	奥村 敦	6番	河村 孝
7番	山本 哲也	8番	中世古 泉
9番	木下 順一	10番	戸上 健
11番	浜口 一利	12番	坂倉 広子
13番	坂倉 紀男	14番	世古 安秀

○欠席議員（なし）

○出席説明者

・濱口企画財政課長、斎藤副参事、田畑課長補佐

○職務のために出席した事務局職員

事務局長	岩井 太
議事総務係 書記	岡村 なぎさ

次長兼 議事総務係長	木田 崇
---------------	------

(午前11時37分 再開)

○木下順一議長 皆さん、本会議に引き続き、お疲れさまです。

ただいまから全員協議会を再開します。

本日の案件につきましては、お手元に配付してあります事項書のとおりでございます。

それでは、協議事項に入ります。

協議事項1、執行部からの報告事項。

①地方創生臨時交付金活用アイデアについてであります。

それでは、担当職員の説明を求めます。

企画財政課長。

○濱口企画財政課長 企画財政課、濱口です。どうぞよろしくお願いいたします。

貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。

本日は、1月21日にも一度報告をさせていただきましたが、新型コロナウイルス感染症対応におけます地方創生臨時交付金につきまして、改めて現状及び計画申請までの流れなどについて説明のほうをさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、副参事のほうから説明のほうさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○木下順一議長 企画財政課副参事。

○斎藤副参事 企画財政課の斎藤です。よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対応の地方創生臨時交付金につきましては、先ほども申し上げたとおり、既に1月21日に新たに鳥羽市への追加交付の限度額が示されたことを報告させていただいております。来年度の計画申請に向けたアイデア出しを庁内で行っているところですので、その概要について説明のほうをさせていただきます。

お配りしました資料のほうをご覧ください。

まず、これまでの交付決定額と今後交付される限度額を一覧にしております。ご存じのとおり、市町村に交付される臨時交付金につきましては、その町オリジナルの事業が打てる地方単独事業が基本的な立て付けとなっており、その中に自由度の高い通常分と使途が限定されています事業者支援分があります。

また、コロナ禍において国が特に活用を促したいと考えている国庫補助金事業については、通常、市の一般財源で補うべき補助裏を臨時交付金で措置できるよう別枠で交付される仕組みとなっております。これらを表の中に縦列に区分しまして、それぞれの額をお示しております。

令和4年度に入ってから申請できる額として、地方単独事業分の通常分で限度額が1億5,806万4,000円と表示されております。この表の一番下の限度額と書かれたところですが、一番自由度の高い区分ですので、全庁的にアイデアを募集しまして、検討を進めているところでございます。今回の限度額は、通常分が2回交付された令和2年度よりもはるかに少なく、また、令和3年度の通常分の額も下回っておることから、金額の範囲で事業を厳選していく必要があると考えております。

一例をご紹介します。一部、既に当初予算で審議をお願いしている事業も含まれておりますが、大部分のア

アイデアはまだ検討中となっております。

資料の下のほうをご覧ください。

この左側、まず、感染拡大の防止・暮らしの維持につきまして、市の施設の除染や市内施設で感染が発生した場合の消毒応援、感染者等への見舞金・支援金、事業継続に向けた相談窓口の開設等が挙がっております。

また、右側の経済活動の回復・新しい生活様式への転換の分野につきましては、国・県の経済支援策との兼ね合いから、市に求められている役割を考えていく必要があると考えております。

令和3年度は、国・県からの事業者支援に、売上げ減少額や対象業種のところから隙間があり、その補完を市で対応していたところですが、今般、発表された県の制度では、売上げ30%以上減少した県内の中小法人、個人事業者等の事業者に対して支援がなされる見通しです。国の制度も同じく、売上げの30%以上減少を対象としていることから、かなり手厚くカバーされていることが報告されております。こうした中で、さらに市で上乗せを行うか、また、別のアフターコロナを見据えた事業展開に生かすか、新しい生活様式への転換を次につなげるか等々、市の視点から協議をしているところでございます。

具体的な計画の提出スケジュール等は示されておりませんので、もう少し計画を練っていきたいと考えております。実際の予算化につきましては、そのときどきのフェーズも見ながら、優先度の高いものを選んで順次対応していきたいと考えております。

以上、コロナ臨時交付金をめぐる進捗状況を報告させていただきました。

○木下順一議長 執行部からの報告は終わりました。

この件につきまして何かご意見、ご質疑はございませんか。

濱口正久議員。

○濱口正久議員 アイデアの取りまとめ、実際、年をまたいでいつ頃になるとかというのは、まだ全然決まっていないのでしょうか。

○木下順一議長 副参事。

○斎藤副参事 まだ計画が出されていないところですので、はっきりと決まっているわけではないです。

以上です。

○木下順一議長 濱口正久議員。

○濱口正久議員 ありがとうございます。

これ限られた予算になってきていますので、そこら辺は慎重にしっかりと吟味していただいて、やっていただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一議長 他にございませんか。

世古議員。

○世古安秀議員 様々なアイデアを練っているということですが、ぜひとも、右の下のほうにあります経済活動の回復というところで、このあたりにもっとやっぱり力を入れて、事業を展開していただきたいなというところで要望だけしておきます。お願いします。

○木下順一議長 ほかにございませんか。

戸上議員。

○戸上 健議員 先ほどの副参事の説明では、国が30%と、県もそうですけれども拡大をしました。ですから、それから外れた人はフォローできるということになります。それにまた上乘せするのかと、例えば、名張やったか伊賀やったか、15%、20%でも市として手当をしている自治体もあります。それを上乘せするのか、それともアフターコロナを見据えた事業展開に交付金を活用するのか。市のほうでは、まだそういう基本的な方向性というのは決まっていないのでしょうか。今、検討中ということなんでしょうか。

○木下順一議長 斎藤副参事。

○斎藤副参事 その件に関して、今、鋭意検討しているところでございますので、事業所さんとか、市民の方の意見とかも広く聞きながら検討したいなというふうには思っております。

以上です。

○木下順一議長 戸上議員。

○戸上 健議員 この1億6,000万円前後、1億5,800万円ですけれども、それをどういうふうにも有効に活用するかという各課横断のプロジェクトチーム的なもの、そういうものをつくっておるのでしょうか。それとも、企画が窓口になって、各課から事情聴取とかアイデアを募集して、企画でまとめておるといふ手法なんでしょうか。

○木下順一議長 斎藤副参事。

○斎藤副参事 企画のほうでそれぞれのアイデアを持ち寄っていただきながら調整し、そのフェーズごとで一番優先順位を高くあったものを選んでいくような形を取っております。

以上です。

○木下順一議長 戸上議員。

○戸上 健議員 最後ですけれども、1次、2次のときは、我々議会、基本的にこういうメニューですということを出していただいて、議会からもアイデアがありますかという問題提起といいますか、それがありませんでした。そうやもんで、我々議会も住民の皆さんからいろいろアウトリーチの中でお聞きしている課題について提言してきたというふうに思うんです。そういう機会は今後あるのでしょうか。

○木下順一議長 企画財政課長。

○濱口企画財政課長 これまでの1回、2回という形で、議員さんのほうにもアイデアがあればということでも言わせていただきました。今回につきましても、もうある程度、動きがこれまでありましたので、ここが該当するなという部分でありましたら、例えば農水商工課であったり、健康福祉であったりというところで、直接こんなことできやんかというぐらいのアイデア出して言っていただくのが一番いいかなと思いますので、その辺でまた私どもで経済部会という形で情報を集めまして、いろいろ判断していきたいというふうに思いますので、ぜひアイデアがあれば出していただければと思います。

以上でございます。

○木下順一議長 戸上議員。

○戸上 健議員 ごめん、重なるようやけれども、そうすると、議員のほうから各課に、例えば、健康福祉分野であれば健康福祉課へ直接言うてもかまへんということなん。

○木下順一議長 企画財政課長。

○濱口企画財政課長 そのようにしていただいたほうが早いかなと思います。よろしく願いいたします。

○戸上 健議員 分かりました。はい、了解です。

○木下順一議長 他にございませんか。

浜口一利議員。

○浜口一利議員 この地方創生臨時交付金の使い方ということなんですけれども、いろいろアイデア出しをというように広く募ってというやり方も当然悪いとは私は思わないんですけれども、やはり1億5,800万円、金額的にはすごいお金だと思うんですけれども、いざ事業をやろうとすると大変少ないと言うたらあかんけれどもさ、そのような金額だと思うんですけれども、やはりそのあたり2年間、コロナ禍で大変、鳥羽市内、困窮ないろんなところがあるかと思えますけれども、全てに対応するというのはなかなか難しいとは思いますが、この際、鳥羽市としてどのあたりに集中的にやろうかという鳥羽市の方針と、市長としての市長の思いもあるかと思えますけれども、私はそのあたりで絞って、やっぱり基本性というんですか、鳥羽市はこのあたりであったり、2年間の経営を見ていると、このあたりの力を入れて復活というように、そのような試みで私はやったほうがいいのではないかなと思うんですけれども、どうでしょうか。

○木下順一議長 企画財政課長。

○濱口企画財政課長 これまでの臨時交付金の使い道のほうも振り返ってみますと、やはり感染拡大防止とか、暮らしの維持というように少々僅かな金で、僅かな金というとおかしいんですけれども、ある程度の予算でできます。ただ、やはり経済回復の見直しというすごい大きな金がぼっと動きますので、その辺はいろんな事業、アイデアが出てきた中で、やっぱり何が一番効果的かというのを判断しながら、できれば経済が回復するほうに大きなウエートがかかってくるのかというふうに判断しておりますので、その辺ではまだ十分検討した上で事業を進めていきたいというふうに考えております。

○木下順一議長 浜口一利議員。

○浜口一利議員 そのあたりをしっかりと含んだ上での事業展開をお願いしたいと思います。

○木下順一議長 河村副議長。

○河村 孝副議長 私も世古議員と浜口議員がおっしゃったところ、経済を回すというところに全集中するべきだと思います。この金額、一見、1億5,800万円という数字は大きく見えるんですけれども、実際に資料つくっていただいている「感染拡大の防止・暮らしの維持」のところで、ある程度のお金もうかかってくるというのはもう仕方ないところなんです。それを引いた部分で使えるとなると、あれもこれもできるのかというのはなかなか難しいと思うので、一番効果が高いところはどこなのかというのは、当然、その入り込み客数をどうやって増やすか、そこに連なっている、例えば、今回協力金を頂けない昼間だけの飲食店であったりとか、事業復活支援金に届かない、30%に届かないようなところの人たちのケアも、年度当初というのはなかなか売上げがいかんかったけれども、結局、4年度終わってみれば後半大きな黒字が出て、経済が動いたから何とかできたというような形にもっていけるのが、やっぱり入り込み客数を増やすというところが一番だと思うんです。私としてはそこに集中して投資してほしいなというふうに考えます。財政課長、いかがですか。

○木下順一議長 企画財政課長。

○濱口企画財政課長 もう議員おっしゃるとおりで、経済対策だけでは、確かに1億5,000万円というのは僅かな金額、本当はもっとやりたいという気持ちもあるんですけども、それをメインに、ただ、それ以外の新生活の様式だったり、アフターコロナに対する事業も当然必要な部分で大事なところありますので、そこら辺は十分精査した上で、中心に考えてアイデアのほうを精査して事業を組んでいきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

○河村 孝副議長 よろしく願いいたします。

以上です。

○木下順一議長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一議長 ないようですので、執行部の報告は終わりたいと思います。

以上で本日の協議事項は全部終了いたしました。

これをもちまして、全員協議会を散会いたします。

(午前11時53分 散会)

議長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和4年3月10日

鳥羽市議会議長 木 下 順 一